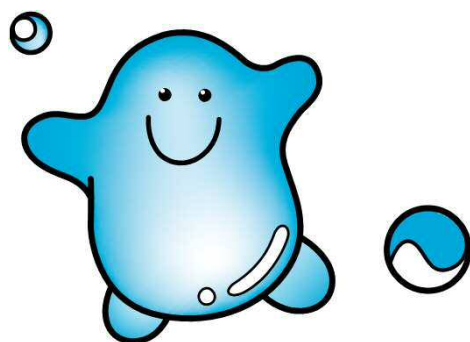


平成29年度 水道事業会計予算の概要



ウォッピー

札幌市水道局公式キャラクター

平成29年（2017年）3月
札幌市水道局

目 次

1	公営企業会計について	P 1
2	予算のポイント	P 4
3	平成29年度予算の姿	P 6
4	主要事業	P 10
5	経営課題	P 13

1 公営企業会計について

○地方公営企業とは

- ・地方公共団体が、住民の福祉の増進を目的として設置し、経営する企業。
- ・地方公営企業は、提供するサービスの対価である料金収入により維持される。
- ・札幌市では、水道・病院・中央卸売市場・軌道・高速電車・下水道の6事業が該当。

【公営企業会計の主な特色～一般の官公庁会計との違い～】

①現金主義ではなく、発生主義である。

現金の収支にかかわらず経済活動の発生事実に基づき整理される。

②期間計算（費用配分）の考え方がある。

その年度の収益の獲得につながったと考えられる部分だけがその年度の費用として整理される。

③損益計算と資本取引の区分がある。

1年間の経営成績を表す収益的収支、施設の建設・改良等の事業費とその財源を表す資本的収支の2つの収支がある。

④資産、負債及び資本の概念がある。

「資産」は資金の運用形態を示し、「負債及び資本」は資金の調達方法等を示す。

※資産＝負債＋資本

⑤予算及び決算の双方を重視する。

歳出の規制だけではなく、経済性の発揮が求められている。

・・・など

1 公営企業会計について

○収益的収支と資本的収支

■収益的収支

- ・ 1年間の企業の経営活動に伴い、発生する収益と費用を表したもの
 - 施設の運転・管理等、事業を運営するための費用とその財源
 - 当年度の収益と費用を表す（黒字・赤字）

■資本的収支

- ・ 施設の建設など支出の効果が次年度以降に及ぶものや、企業債の元金償還などの支出とその財源となる収入を表したもの
 - 施設を建設・整備するための支出と企業債の借入などの財源
 - 翌年度以降の収益的収支に影響

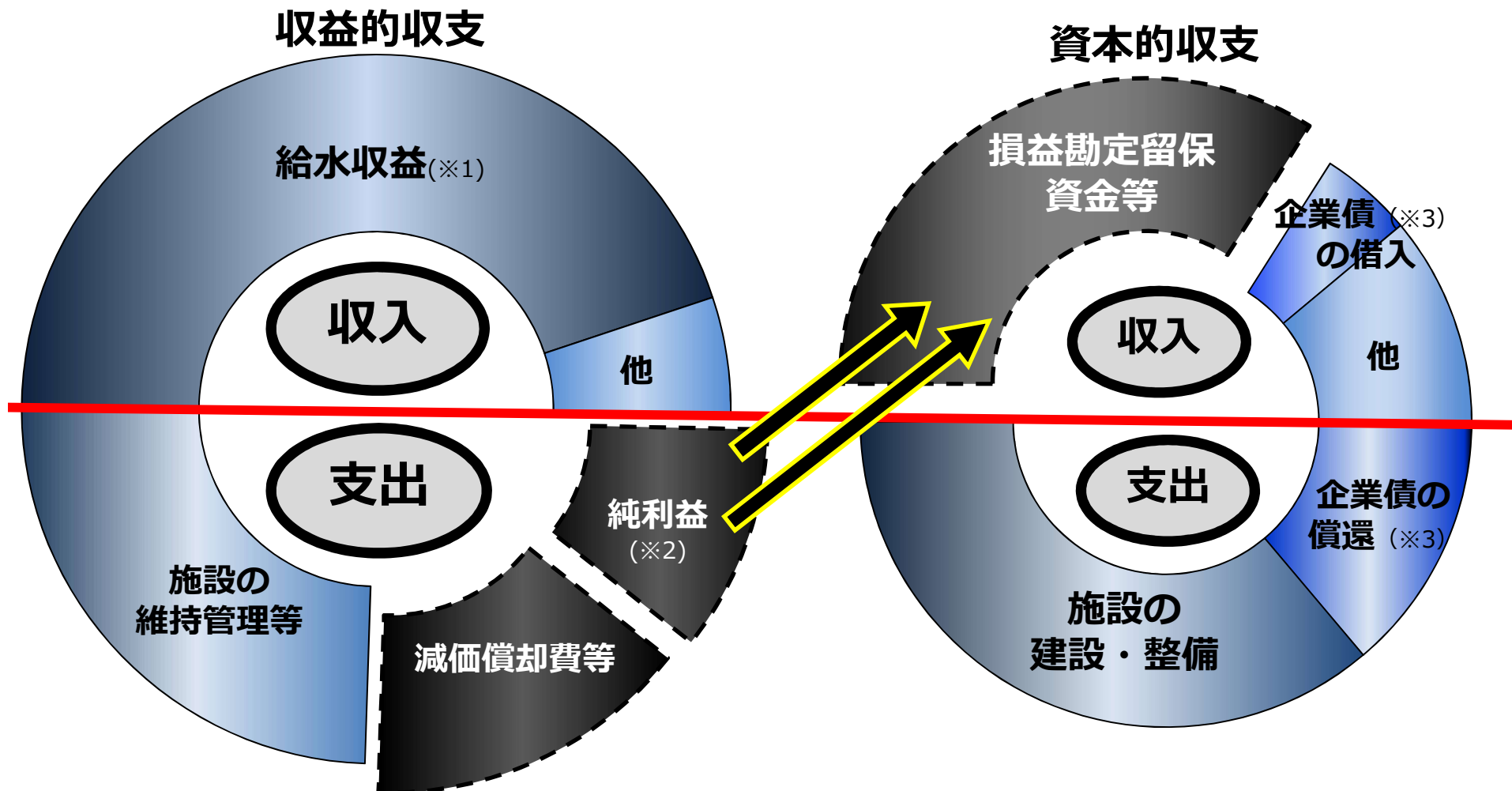
- 公営企業会計においては、資本的収支の収入が支出に対し不足するため、収益的収支からの損益勘定留保資金^(※1)（減価償却費^(※2)等）や利益で補てん（穴埋め）することが一般的

※1 損益勘定留保資金：現金支出を伴わない支出によって企業内に残る資金

※2 減価償却費：固定資産の経年的な価値の減少を毎事業年度の費用として計上するもの

1 公営企業会計について

○収益的収支と資本的収支の関係 イメージ図



※1 給水収益:水道料金の収入
※2 純利益:収益(収入)から費用(支出)を差し引いた残額
(マイナスとなった場合、純損失という)

※3 企業債:施設の建設・整備の財源に充てるための借入金。
元金返済分が企業債の償還に計上される。
(支払利息については収益的支出に計上される。)

2 予算のポイント

収入支出の概要

○収益的収支

(消費税込、単位:億円)

区 分	平成29予算	平成28予算	増減	増減率
収益的収入 A	451	449	2	0.4%
収益的支出 B	359	360	▲ 1	▲ 0.3%
差引(純利益) A-B	92	89	3	3.4%

○主な増減理由

- ・ 収入(増) ~ 有収水量(※1)の増加等による給水収益の増加
- ・ 支出(減) ~ 請負工事費の減少等による運営管理費の減少

○資本的収支

(消費税込、単位:億円)

区 分	平成29予算	平成28予算	増減	増減率
資本的収入 A	98	74	24	32.4%
資本的支出 B	306	355	▲ 49	▲ 13.8%
差引(収支不足) A-B	▲ 208	▲ 281	73	26.0%

○主な増減理由

- ・ 収入(増) ~ 建設、改良等の事業費の増加による企業債借入の増加
- ・ 支出(減) ~ 長期の資金運用取りやめによる水道施設更新積立運用金(※2)支出の減少

※1 有収水量: 浄水場から配水池を經由して送り出される水量のうち、水道料金収入の対象となる水の量

※2 水道施設更新積立運用金: 水道施設の更新財源として積み立てた資金を長期運用するため支出として計上するもの

2 予算のポイント

資金残高

○収益的収支・資本的収支と過年度分内部留保資金を踏まえた資金残高

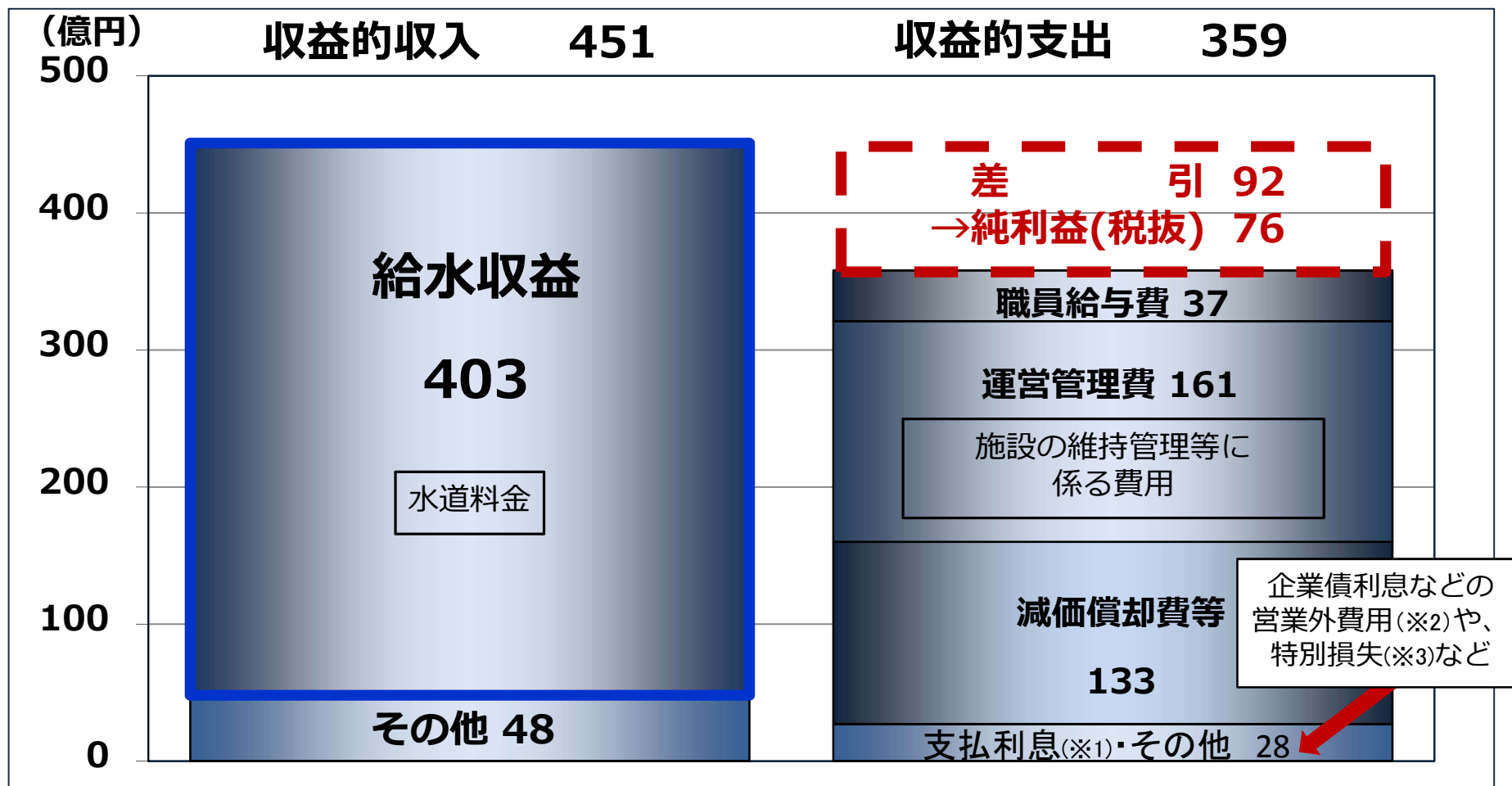
- ・収益的収支差引92億円、資本的収支差引▲208億円、当年度分損益勘定留保資金等100億円、前年度からの繰越金である過年度分内部留保資金42億円を加えると、平成29年度末の資金残高は26億円となる。

(消費税込、単位:億円)

区 分	平成29予算	平成28予算	増減	増減率
収益的収支差引 A	92	89	3	3.4%
資本的収支差引 B	▲208	▲281	73	26.0%
当年度分 損益勘定留保資金等 C	100	104	▲4	▲3.8%
計 D=A+B+C	▲16	▲88	72	81.8%
過年度分 内部留保資金 E	42	140	▲98	▲70.0%
合計(資金残高) D+E	26	52	▲26	▲50.0%

3 平成29年度予算の姿

収益的収支（消費税込）



※1 支払利息: 企業債の借入に伴う利息。当年度支払い分を費用として計上

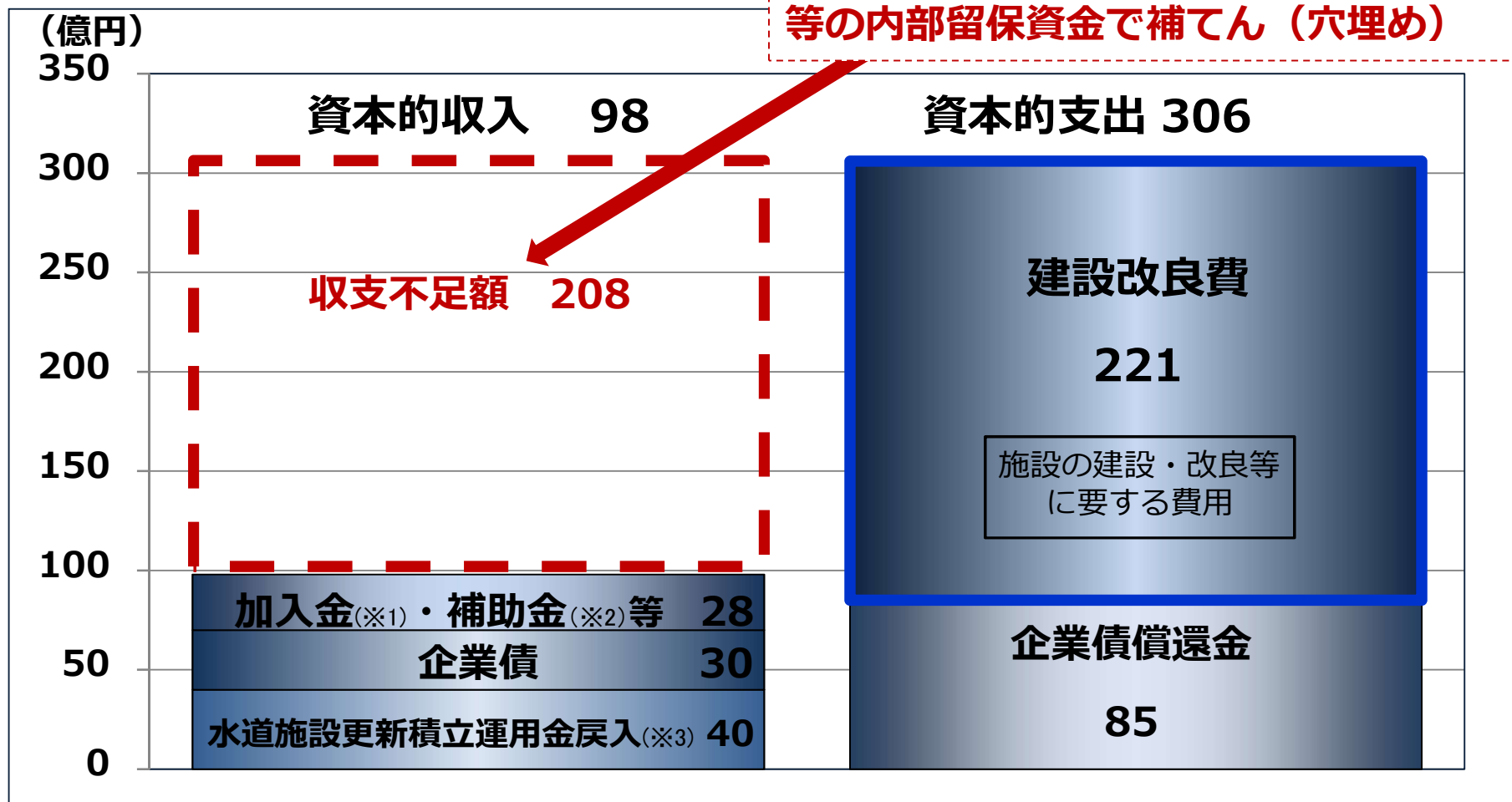
※2 営業外費用: 水道事業の主たる営業活動以外の原因から生じる費用

※3 特別損失: 当期の費用に計上することが不相当であるような費用(臨時的な費用や過年度分の水道料金還付金など)

3 平成29年度予算の姿

資本的収支（消費税込）

収益的収支差引（純利益）や減価償却費等の内部留保資金で補てん（穴埋め）



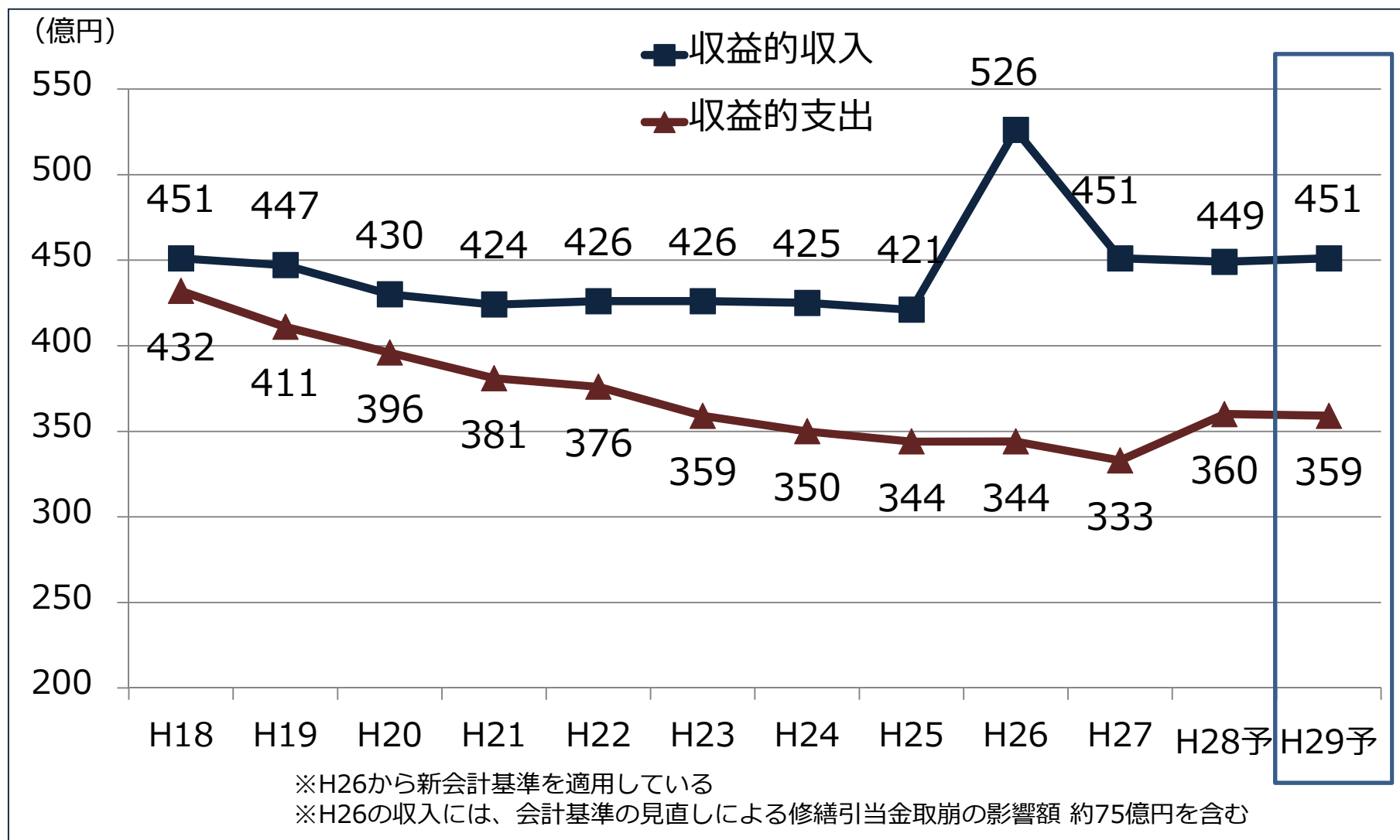
※1 加入金:新しく水道をつけたり、水道メーターの改造工事をするときに徴収するもの

※2 補助金:国、道、一般会計から行政上の目的をもって交付される金銭的給付

※3 水道施設更新積立運用金戻入:水道施設更新積立金を長期の資金運用終了後に収入として計上するもの

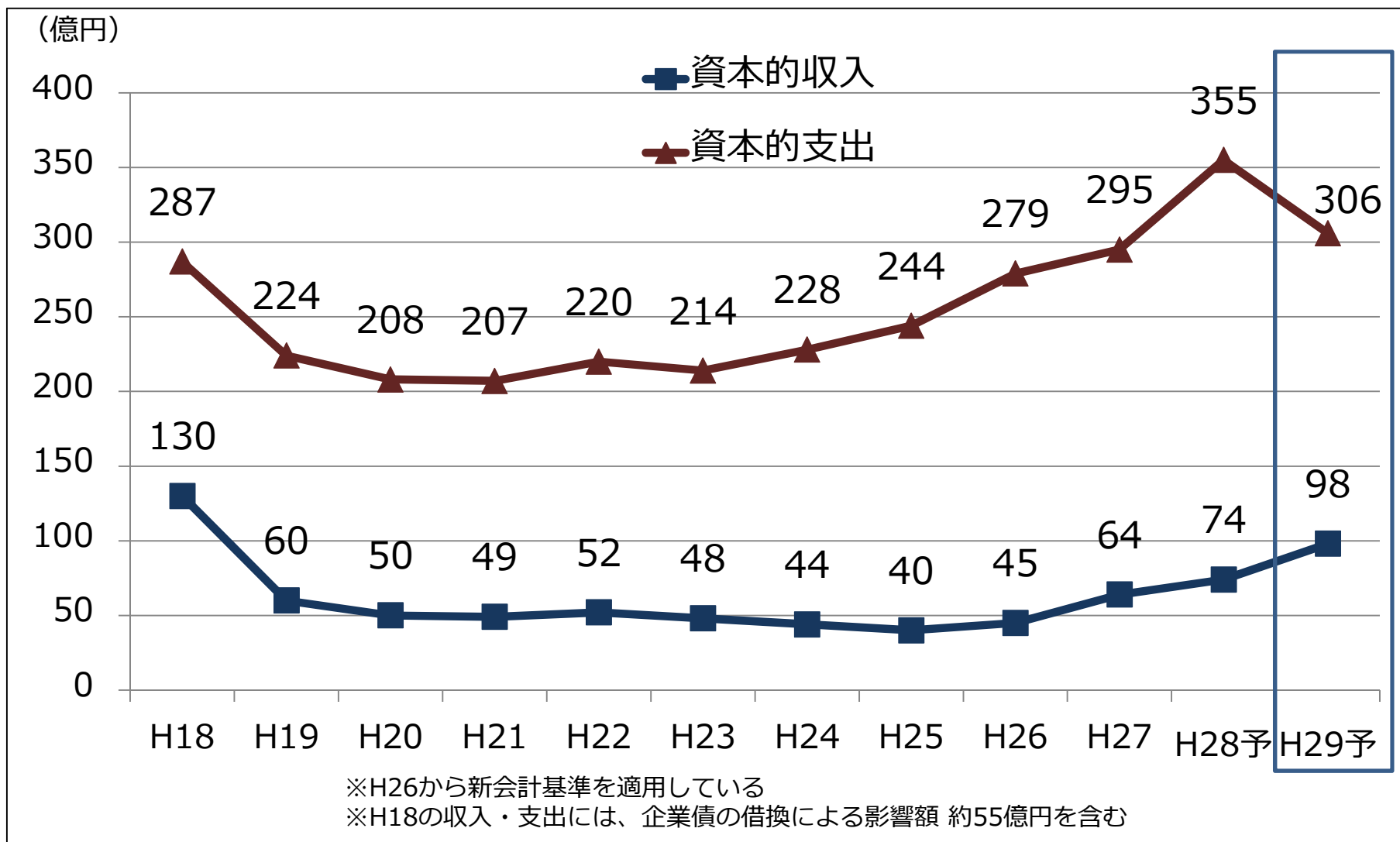
3 平成29年度予算の姿

収益的収支（消費税込）の推移



3 平成29年度予算の姿

資本的収支（消費税込）の推移



4 主要事業

○「札幌水道ビジョン」における4つの目標と実現するための主要事業

【目標1 安全で良質な水の確保】

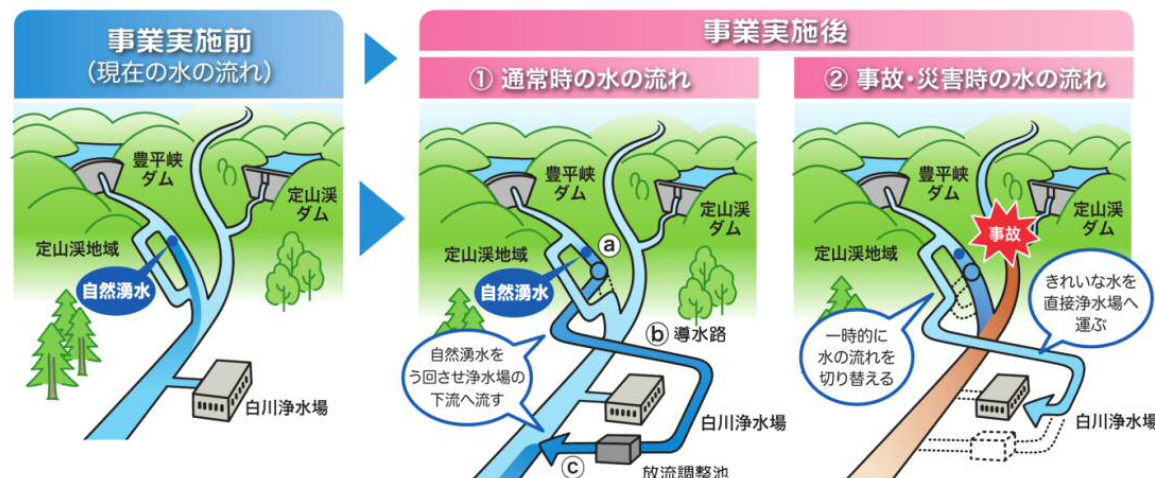
水源の確保や水源の保全・水質管理の強化を図ることにより、これからも安全で良質な水の供給を目指す。

○豊平川水道水源水質保全事業

- ・・・導水路新設工事など
- ・・・事業費 4,730百万円

- ◆事業期間・・・平成17～32年度
- ◆総事業費・・・約 187億円

【豊平川水道水源水質保全事業】



4 主要事業

【目標2 安定した水の供給】

水道施設の計画的・効率的な整備・維持管理を進める一方、災害に強い水道システムの構築や緊急貯水槽等による給水ストックの確保など危機管理システムを確立し、安定給水の堅持を目指す。

○配水管更新事業

- ・・・配水管更新計画に基づき約63.0kmを更新
- ・・・事業費 6,704百万円

○白川第3送水管新設事業

- ・・・山岳部のシールド工事など
- ・・・事業費 2,642百万円

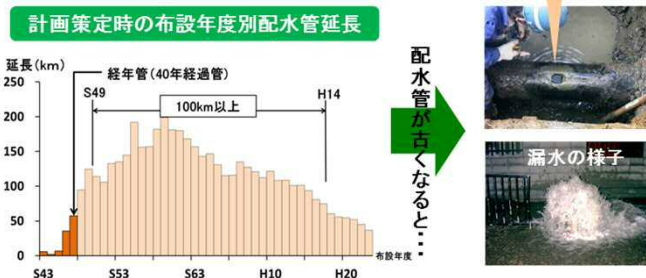
- ◆事業期間・・・平成15～30年度
- ◆総事業費・・・約256億円

○緊急貯水槽・緊急遮断弁整備事業

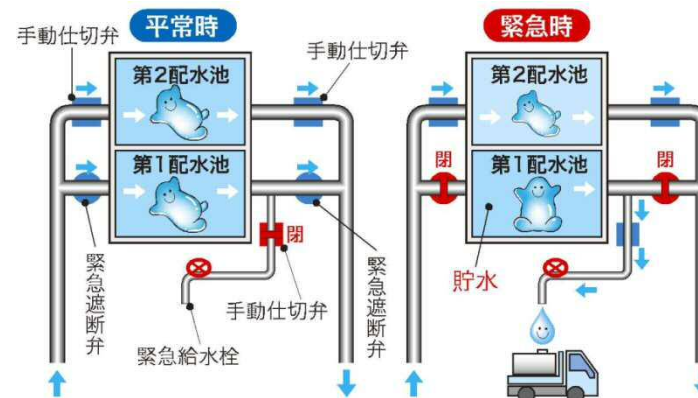
- ・・・東川下公園緊急貯水槽新設工事
藤野沢配水池緊急遮断弁実施設計
- ・・・事業費 133百万円

【計画策定時の布設年度別配水管延長】

泥炭や粘土などの金属を腐食させやすい土壌(腐食性土壌)に布設されている場合には、管の外面に穴があき、漏水を引き起こすことがあります。



【緊急遮断弁整備】



4 主要事業

【目標3 利用者に満足される水道】

利用者との双方向のコミュニケーションを図りながら、利用者ニーズに対応したサービスの提供を図り、利用者に満足され、信頼される水道を目指す。

【広報活動の様子】



○利用者とのコミュニケーションの充実

- ・・・札幌水道の取組に関する広報
- ・・・事業費 29百万円

【目標4 健全経営のもと自律した水道】

効率的な事業運営や健全財政を堅持していくほか、時代の変化に柔軟に対応できる活力ある人材・組織づくりや環境に配慮した事業運営を目指す。

【緊急時連絡管イメージ】



○道内連携と広域化の推進

- ・・・緊急時連絡管新設工事
(小樽市、江別市、北広島市)
- ・・・事業費 27百万円

5 経営課題

- 図表1のとおり、利用者の節水傾向が続く中、人口も減少に転じていくと推測されており、**収入の大部分を占める給水収益**は緩やかな**減少傾向**が続くと見込まれる。
- 図表2のとおり、施設の経年劣化に伴う大規模更新や耐震化事業の実施により**建設改良費は200億円前後の高い水準で推移**することが見込まれる。

厳しい経営環境
のなかで

施設規模の見直しや延命化などの工夫により支出を抑え、健全財政の維持と更新財源の確保の両立を図ることで、安全安定給水を維持していく。

